

# 「日清戦争 扁額画展」

～116年前の津島神社社務所の落成記念～

2017年9月15日から、津島神社の社務所に保管されていた日清戦争の扁額画を図書館で展示します。

扁額画は、旧社務所が竣工した明治34年（1901）に奉納されたもので、全14点あります。それぞれ日清戦争の各場面を描いたもので、津島町内の氏子が分担奉納しました。長らく存在が忘れられていましたが、8月の社務所取り壊しによって「再発見」されました。



明治34年：完成直前の津島神社社務所

先月取り壊された社務所は、濃尾震災（1891年）で倒壊した建物を10年かけて再建したものです。震災復興の象徴ともいえるものでした。

この記念すべき社務所の奉納扁額に日清戦争（1894-95）の画題を選んだのは、人々が「武運長久」と「戦勝祈願」のため大いに津島神社を信仰したからです。

今回、津島神社から扁額画の寄贈を受けたことを機に、①当時の人々が抱いていた津島神社への崇敬、②濃尾震災からの復興、③日清戦争の高揚感など、多くの背景を感じていただければと展示を企画しました。扁額画には、それぞれ戦局の解説を付し、奉納者の紹介もしています。全体的に劣化が進んでいますが、当時の様子を知る貴重な資料となっています。

順	日清戦争扁額画題	画題場面の年月日	奉納者
①	京城談判之図（朝鮮王宮占領）	1894年7月20日	戎 町：伊藤正太郎（伊勢正）
②	豊島沖之図（豊島沖海戦）	1894年7月25日	橋詰町：安藤磯吉（安藤運送） 北 町：宇佐美庄七（ヤマセン）
③	安城渡之図（安城の渡しの戦い）	1894年7月29日	橋詰町：水野富次郎（東八百宗）
④	重傷死瀕尚進撃喇叭吹 （安城の渡しの戦い）	1894年7月29日	堤下町：服部宗平（万宗）
⑤	牡丹台之図（平壤城北面の戦い）	1894年9月15日	橋詰町：横井勝助（上田屋）
⑥	満州騎兵鏖殺（平壤城の戦い）	1894年9月15日	橋詰町：佐脇平三郎（藤浪旅館） 片 町：加藤儀兵衛（得宜楼）
⑦	玄武門進撃（平壤城の戦い）	1894年9月15日	筏場町：水野庄左衛門（岡庄）
⑧	平壤之図（平壤城の戦い）	1894年9月15日	金 町：氷室七郎（カネ七）
⑨	黄海激戦真景（黄海海戦）	1894年9月17日	堺 町：山田才助（まのや）
⑩	在韓我兵站部（物資輸送隊）	1894年9-10月	橋詰町：後藤善兵衛（大善） 城之越町：山田幸一（山幸商店）
⑪	柞木城迫図（海城作戦）	1894年12月12日	橋詰町：高間徳十郎（三戎楼） 橋詰町：遠山吉次郎（池吉）
⑫	威海衛突貫図（威海衛攻撃）	1895年1月30日	金 町：安達長蔵（カネ長） 金 町：佐藤松次郎（香取屋）
⑬	敵艦轟沈図（威海衛攻撃）	1895年2月5日	橋詰町：山田庄次郎（まる八）
⑭	請和使会見（下関条約）	1895年4月17日	馬場町：佐藤藤助 堤下町：城勅右衛門

# 日清戦争扁額画展

～116年前の津島神社社務所の落成記念～

2017年8月、津島神社では平成の大改修に伴い、社務所新築のため旧来の建物を解体しました。旧来の社務所は明治34年（1901）10月に竣工し、116年間使用されていました。

ところで、社務所には日清戦争（1894-95）の各場面を描いた扁額14点が保管されていました。津島町の氏子20名が社務所の落成記念として絵師に依頼し、それを奉納したものです。

2017年8月、津島市立図書館では津島神社から扁額画の寄贈を受けました。今回、これを記念し、扁額画の解説と奉納者の紹介をします。当時の人々が抱いていた津島神社への崇敬と、日清戦争後の高揚感を感じていただければと思います。

# 社務所の落成と扁額画

津島神社の旧社務所は明治34年（1901）10月に落成しました。当時の津島の人々は、この落成を「震災復興」と「信仰復活」の象徴として考え、大変喜んだようです。

明治24年（1891）年10月、当地は「濃尾地震」と呼ばれた大地震に襲われ、甚大な被害を受けました。津島神社でも神社運営の拠点となる社務所が倒壊します。当時は明治初期の廃仏毀釈によって信者も資産も激減しており、社務所再建の見通しは困難な状況でした。

こうした中、明治27年（1894）に日清戦争が始まりました。津島町からも出征者が続出し、「武運長久」祈願のため多くの人々が津島神社を訪れるようになりました。



明治34年：完成直前の津島神社社務所

明治 28 年（1895）、日清戦争が日本の勝利で終結すると、津島でも祝賀ムードに沸きます。年末には「凱旋記念書籍館」（現津島市立図書館）も建てられました。津島神社では戦勝の御礼参りでさらに多くの人々が訪れ、明治維新前の信仰と賑わいを取り戻したかのようでした。

こうした状況で社務所の再建が計画されると、**濃尾地震からの復興記念**と**日清戦争の戦勝記念**のため、町内の氏子たちはさまざまな奉納品を考えます。

明治 34 年（1901）、津島神社社務所が完成します。数多くの氏子のうち、**橋詰町・金町**などを中心とする有力者 20 名は、日清戦争の各場面を描いた**扁額画 14 点**を分担奉納しました。これが今回の展示の奉納扁額画です。

116 年経った現在、鮮やかに残る色彩と構図に、当時の高揚感と祝賀ムードを感じることができます。

# 奉納扁額画 一覧表

順	日清戦争扁額画題	画題場面の年月日	奉納者
①	京城談判之図 (朝鮮王宮占領)	1894年7月20日	戎 町：伊藤正太郎
②	豊島沖之図 (豊島沖海戦)	1894年7月25日	橋詰町：安藤磯吉 北 町：宇佐美庄七 (※)
③	安城渡之図 (安城の渡しの戦い)	1894年7月29日	橋詰町：水野富次郎
④	重傷死瀕尚進撃喇叭吹 (安城の渡しの戦い)	1894年7月29日	堤下町：服部宗平
⑤	牡丹台之図 (平壤城北面の戦い)	1894年9月15日	橋詰町：横井勝助
⑥	満州騎兵鏖殺 (平壤城の戦い)	1894年9月15日	橋詰町：佐脇平三郎 片 町：加藤儀兵衛
⑦	玄武門進撃 (平壤城の戦い)	1894年9月15日	筏場町：水野庄左衛門

⑧	平壤之図（平壤城の戦い）	1894年9月15日	金 町：氷室七郎
⑨	黄海激戦真景（黄海海戦）	1894年9月17日	堺 町：山田才助
⑩	在韓我兵站部（物資輸送隊）	1894年9 - 10月	橋詰町：後藤善兵衛 城之越町：山田幸一
⑪	柞木城迫図（海城作戦）	1894年12月12日	橋詰町：高間徳十郎 橋詰町：遠山吉次郎（※）
⑫	威海衛突貫図（威海衛攻撃）	1895年1月30日	金 町：安達長蔵 金 町：佐藤松三郎
⑬	敵艦轟沈図（威海衛攻撃）	1895年2月5日	橋詰町：山田庄次郎
⑭	請和使会見（下関条約）	1895年4月17日	馬場町：佐藤藤助（※） 堤下町：城勘右衛門（※）

【注】寄贈者のうち、（※）を付した4名は不明

## ① 京城談判之図（けいじょう だんぱんのず：「朝鮮王宮占領」）

寄贈者：戎町 伊藤正太郎

1894年7月20日、駐朝公使の大鳥圭介が朝鮮政府に対し、清の属国から独立し清軍を撤退させるよう、最後通牒を突きつけた図。7月22日、朝鮮政府は回答に応じなかったため23日未明、京城の王宮を攻撃。同日に占拠し、大院君を首班とする親日新政権を樹立させた。これにより日清両国の開戦は決定的となった。

## ② 豊島沖之図（ほうとうおきのず：「豊島沖海戦」）

寄贈者：橋詰町 安藤磯吉、北町 宇佐美庄七

1894年7月25日の豊島沖海戦のこと。左の旭日旗は日本軍艦「浪速」で艦長は東郷平八郎。右手前の清国船「高陞号」（こうしょうごう）が武装解除に応じなかったため撃沈した。「浪速」のすぐ奥、白旗を掲げ降伏した清国艦は「操江」。この戦いを機に日清戦争が始まった。清国船は北洋艦隊旗である「黄龍旗」を掲げている。

### ③ 安城渡之図（あんじょうとのず：「安城の渡しの戦い」）

寄贈者：橋詰町 水野富次郎

1894年7月29日午前3時過ぎ、日本軍は朝鮮政府より牙山城（京城近郊）の清軍撃退要請を受け、ここに籠る清軍と交戦した。日本軍は「安城の渡し場」から渡河し、日清戦争最初の陸上戦となった。同日午後、清軍は大きな損害を出し平壤方面へ撤退した。

### ④ 重傷死瀕尚進撃喇叭吹

（きずおもく しにひんするも なお しんげきらっぱふく：「安城の渡しの戦い」）

寄贈者：堤下町 服部宗平

1894年7月29日午前3時過ぎ、安城の渡りで日本軍と清軍は交戦。歩兵第21連隊の木口小平二等卒は瀕死の重傷を負ったものの、息絶えるまでラッパを離さず吹き続けたという。この戦いは日本軍の損害88名、清軍の損害約500名となり、日本軍の圧勝に終わった。

## ⑤ 牡丹台之図（ぼたんだいのず：「平壤城北面の戦い」）

寄贈者：橋詰町 横井勝助

1894年9月15日早朝、日本軍の朔寧支隊と元山支隊は平壤城攻撃のため北面から前進した。清軍は北面の要衝である牡丹台陣地からガットリング機関砲で激しく抵抗。朔寧支隊はこれに対して山砲隊で射撃し、敵陣に次々命中。午前8時10分、牡丹台を攻略した。

## ⑥ 満州騎兵鏖殺（まんしゅうきへい おうさつ：「平壤城の戦い」）

寄贈者：橋詰町 佐脇平三郎、片町 加藤儀兵衛

1894年9月15日の平壤城攻略戦の際、清軍も各城門を開け日本軍へ突撃を仕掛けた。この時の突撃部隊が大清帝国の誇る精鋭騎兵軍団「満州八旗」であった。しかし、日本軍の各部隊は次々と満州騎兵を撃破。戦局は一方向的な鏖殺（おうさつ：皆殺しのこと）状態となった。

## ⑦ 玄武門進撃（げんぶもん しんげき：「平壤城の戦い」）

寄贈者：筏場町 水野庄左衛門

1894年9月15日午前8時10分、日本軍の朔寧支隊は平壤城北面の牡丹台陣地を攻略。そのまま目前の平壤城玄武門に突撃し、まもなく城門を突破した。ただし、他の部隊が清軍の抵抗に遭っていることから当日は城内へ進軍しなかった。

## ⑧ 平壤之図（へいじょうのず：「平壤城の戦い」）

寄贈者：金町 氷室七郎

1894年9月16日未明、日本軍は平壤城を占領した。図は平壤から脱出する清軍と、それを討つ日本軍の様子。7月以降、清軍は次々と南下し1万3000の兵を平壤に集結。これに朝鮮政府の大院君が動揺したため、日本軍は早期の平壤制圧を計画した。8月21日、日本軍は漢城（ソウル）と元山から計1万の兵で進軍。9月15日早朝から総攻撃を開始した。当初清軍は激しく抵抗したものの、勇将として知られた奉天軍総兵の左宝贵が戦死するなどことごとく敗退。午後4時半、清軍は交戦を中止し夜半に全軍逃走した。

## ⑨ 黄海激戦真景（こうかい げきせん しんけい：「黄海海戦」）

寄贈者：堺町 山田才助

1894年9月17日、日本海軍「連合艦隊」が清国海軍「北洋艦隊」と交戦した黄海海戦を指す。清の「北洋艦隊」は戦艦定遠・鎮遠を中心とした東アジア最強の海軍であり、日本海軍の実力を遙かに凌いでいた。9月16日、旅順を出港した北洋艦隊は鴨緑江沖で日本海軍と遭遇。午後0時50分に交戦状態となった。巨艦で編成された北洋艦隊に対し、小型艦で速度のある連合艦隊との砲撃戦は、当初双方に大きな損害を出した。しかし、3時以降は連合艦隊の集中攻撃により北洋艦隊は大打撃を受け5隻が撃沈。残りの艦は戦場を離脱し、5時前頃に連合艦隊の勝利で海戦は終結した。この戦いで北洋艦隊の残存艦は旅順に逃れ、以降の制海権は日本軍が掌握することとなった。図は連合艦隊の砲撃を受けて沈没する清国艦。

## ⑩ 在韓我兵站部（ざいかん わがへいたんぶ：「朝鮮における日本軍の物資輸送隊」）

寄贈者：橋詰町 後藤善兵衛、 城之越 山田幸一

日清戦争中、朝鮮における日本軍の物資輸送隊と、朝鮮政府の協力を描いた図。開戦当初、日本軍の兵站は人夫の不足から輸送能力を欠き、深刻な問題に発展していた。9月以降、朝鮮政府は毎日4万人の人夫を徴発することで物資輸送に協力。日本軍はこれを全面的に雇用し、快進撃につながった。

## ⑪ 柞木城迫図（たくぼくじょう せまるず：「海城作戦」）

寄贈者：橋詰町 高間徳十郎、 同町 遠山吉次郎

1894年12月12日の早朝、厳寒の南満州を進軍し、無人の柞木城を占領した時の様子。この作戦は南満州の要衝である奉天府海城県（遼寧省鞍山市）の占領を目指したもので、柞木城は海城のすぐ東にあった。翌12月13日、柞木城を出発した日本軍第三師団は海城を占領。ただし、清軍の執拗な奪回作戦や寒さに悩まされ、1月下旬まで現地で冬営した。

## ⑫ 威海衛突貫図（いかいえい とっかんず：「威海衛攻撃」）

寄贈者：金町 安達長蔵、 同町 佐藤松次郎

1895年1月30日、清の制海権を無力化するため、北洋艦隊の残存艦艇が立てこもる威海衛の海軍要塞を攻撃する図。山東半島の威海衛には清軍の強固な要塞が築かれていたが、日本軍は1月30日に攻撃を開始。同日中に要塞を攻略、市街地も占領することができた。湾内に孤立した北洋艦隊は最後まで抗戦したが2月12日に降伏した。

## ⑬ 敵艦轟沈図（てきかん ごうちんず：「威海衛湾攻撃」）

寄贈者：橋詰町 山田庄次郎

1895年2月5日未明、山東半島の威海衛湾内において、日本海軍の水雷艇が清の北洋艦隊を攻撃する図。清国海軍の拠点である陸上要塞は1月30日に陥落していたが、湾内では北洋艦隊が艦砲射撃を繰り返して抵抗していた。2月5日未明、日本軍の水雷艇が夜陰に紛れて湾内に入り、旗艦の「定遠」を大破し3隻を撃沈。これにより北洋艦隊は抗戦を諦め2月12日に降伏した。

## ⑭ 請和使会見（せいわし かいけん：「下関条約」）

寄贈者：馬場町 佐藤藤助、 堤下町 城勘右衛門

1895年4月17日、山口県赤間関市（現下関市）で日清戦争の講和会議をおこなった図。この時の条約が「下関条約」（馬関条約）である。この条約で日本は遼東半島・台湾・澎湖諸島を領有することとなり、賠償金2億両を得た。また朝鮮を清から独立させ「大韓帝国」が成立することとなった。図の正面右が総理大臣の伊藤博文。その左が外務大臣の陸奥宗光。反対に座る右側の人物は清の直隸総督李鴻章。その左は欽差大臣李經方。

# 奉納者紹介

### ① 伊藤正太郎

伊勢正商店主（印刷業）  
※現在は新聞配達店



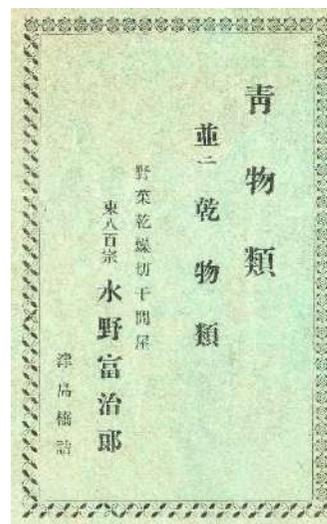
### ②<sup>1</sup> 安藤磯吉

安藤運送店主（運送業）  
※のち日本通運津島支店



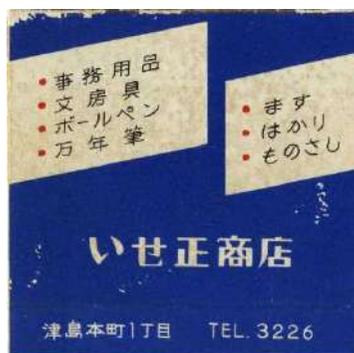
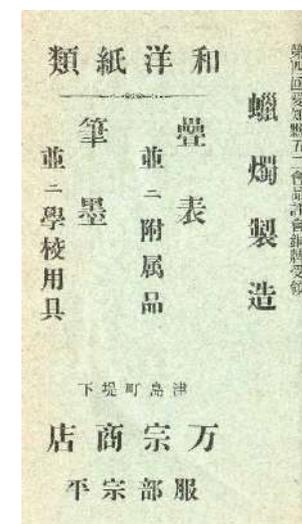
### ③ 水野富次郎

東八百宗店主（海産乾物  
魚類商）



### ④ 服部宗平

万宗商店（和洋紙・畳・  
蝋燭商）



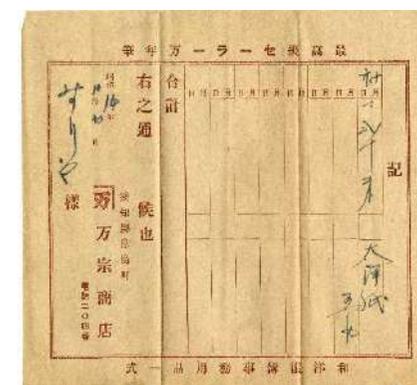
昭和30年代のマッチ広告



日本通運津島支店:1948年



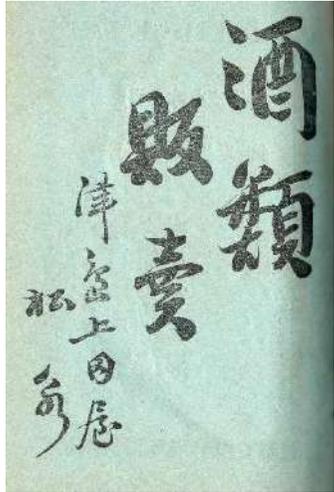
先代の「八百屋宗左衛門」引き札



昭和14年：万宗商店より紙を  
購入した領収書

⑤ 横井勝助

上田屋（酒商）店主か



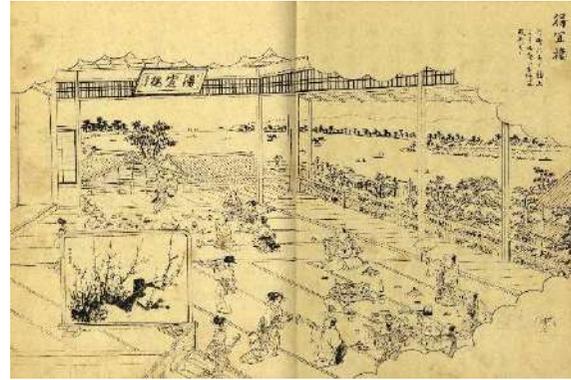
⑥<sup>1</sup> 佐脇平三郎

山平旅館（藤浪旅館）



⑥<sup>2</sup> 加藤儀兵衛

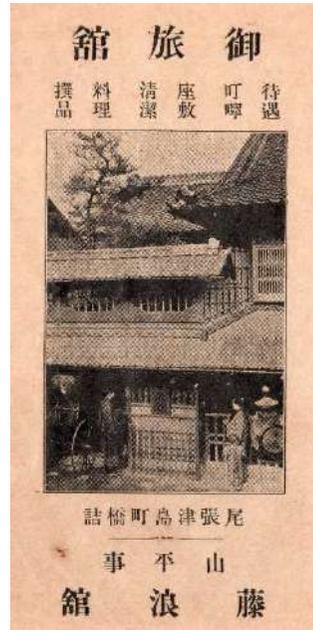
得宜楼店主（料理業）



江戸後期の得宜楼

⑦ 水野庄左衛門

水野商店（綿織物商）



大正期：水野商店（岡庄）の商標

⑧ 氷室七郎

カネ七商店（酒商）店主  
※旧御師の氷室七太夫家



⑨ 山田才助

まのや（料理旅館）  
※現在はラ・プチット  
・シェーズ



大正前期：まのや旅館絵葉書

⑩<sup>1</sup> 後藤善兵衛

大善（絵具染料商）



⑩<sup>2</sup> 山田幸一

山田幸一商店（薪炭商）  
※現在もガス燃料社として  
営業



山田商店引き札

⑪<sup>1</sup> 高間徳十郎

三戎楼（料理業）  
※2010年9月に取り壊し

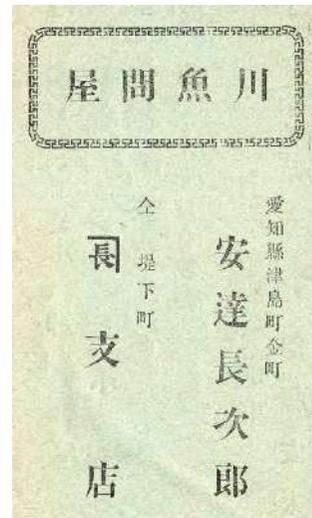


1992年：力ネ長



⑫<sup>1</sup> 安達長蔵

力ネ長（川魚問屋）  
※現在も建物は残る



⑫<sup>2</sup> 佐藤松三郎

香取屋（紙・帳簿・事務用品販売商）  
※現在も江東町で営業



⑬ 山田庄次郎

まる八商店（魚鳥問屋）

